

わくわく国際交流

深川国際交流協会 広報誌 Vol.5 (秋号) 1999.9

今回の秋号では、青少年海外派遣事業(カナダ)交流団員の交流を終えた感想と4月に開催された総会の報告が中心になります。

【1999年度青少年海外派遣事業の概要】

1999年7月27日から8月11日の行程で、青少年海外派遣事業が実施されました。交流団員は10名の中学生・高校生と2名の引率者で構成され、カナダを訪問しました。

月日	主な研修内容	団員名	学校	学年
7/27	深川市発～アボツフォード市到着	柏倉 裕	深川東商業高等学校	3年
7/28	英語の授業(W.J.Mouat 高校)、カルタス湖	桑原知香	深川東商業高等学校	3年
7/29	スタンレイ公園、グランビル・アイランド	北村由美	深川東商業高等学校	2年
7/30	英語の授業(W.J.Mouat 高校)	倉本 圭	旭川北高等学校	1年
7/31～ 8/1	ホストファミリーと過ごす	田中聡恵	深川市立一已中学校	2年
8/2	ソルト・スプリングへ	上垣美佳	深川市立一已中学校	2年
8/3	ソルトスプリング見学	小川真人	深川東商業高等学校	3年
8/4	ビクトリア見学	高木百合子	深川市立深川中学校	1年
8/5	英語の授業(W.J.Mouat 高校)、マツクイ農場	山本 歩	旭川北高等学校	2年
8/6	ロングハウス見学	藪 明香	深川西高等学校	1年
8/7～8	ホストファミリーと過ごす	引率指導者名	所 属	
8/9	さよならパーティ	北川博文	深川東商業高等学校	
8/10	アボツフォード市出発 (深川市到着 8/11)	上垣由紀子	深川国際交流協会理事	

～交流団の皆さんにカナダでの思い出を綴ってもらいました。～



忘れられない16日間

北村 由美 (深川東商業高校2年)

私にとって、カナダでの16日間は一生忘れることのできないような、とても充実した生活でした。こんな体験をさせてくれた両親に、本当に感謝しています。

私は今回、飛行機に乗るのもはじめてだったので、海外ということで、とても不安でいっぱいでした。でも、いよいよ出発という日の朝、市役所前で10人全員が集まると、不安な気持ちもどこかへ行き、カナダに向けて、みんなドキドキしていました。そんな私たち

にとって、まず最初の出来事は、成田空港で安室奈美恵さんにあったことです。はじめはみんな信じられず疑ってばかりいたけど、本人だとわかったとたん「アムロ！アムロ！」の連発でした。その時に、今まであった緊張はなくなっただと思います。

カナダに着くと、あまりにも涼しいので、とても驚きました。

カナダでは、もちろん車は右を走っているし、英語が飛び交っていて、その時やと「これから16日間、カナダで

過ごすんだ」と自覚しました。学校に着くと、大勢のホストファミリーが私たちが来るのを待っていました。(どの人が自分のホストファミリーだろう)と不安な私に「YUMI?!」と声をかけてくれたのが私のママになるグレンナでした。家に連れて行ってもらって荷物を整理するまで、会話といえるほどの話はできませんでした。やっぱり、今までずっと、みんなと日本語で話していたので、急に英語で話しかけられても何もわから

ず、答えることができませんでした。少しすると、出かけていた7歳の女の子(ダニエル)が帰ってきて、私に会うとすぐに“YUMI”というニシャルの入ったブレスレットとネックレスを作ってくれました。とても嬉しくて涙が出そうなくらいでした。

この家は、前にも日本や中国の人たちがホームステイに来ているらしく、冷蔵庫にはたくさんの写真が貼ってあり、とても驚きました。

私は、グレンナにたくさんワガママを言って迷惑をかけました。でもグレンナは怒ったりせずに、いつもワガママを

聞いてくれたり、心配してくれたり、笑わせてくれたりしました。私はそんなグレンナが大好きです。だから別れる時は、つらくて泣いてしまいました。

今回、カナダでは色々な人に出会い、たくさんの思い出を作りました。もちろん、みんなで行ったキャンプや乗馬、プール、バンクーバー見学、ショッピングなど、すべてが楽しくて、「今でもその時のことをはっきりと覚えています。みんなと話をしている時も「このまま、ずっとカナダに住んでいたいね」と言っていたくらいカナダが好きになりました。

カナダから帰ってきた今では、すべてが思い出になってしまい、少し悲しい気持ちもあるけれど、10人はいつまでも良い友達です。たった16日間だったけど、私たちは協力し合い、団結しました。本当にこのメンバーで良かったと思っています。

最後になりましたが、北川先生、上垣さん、色々と迷惑をかけてすみませんでした。

本当にありがとうございました。



大切な思い出

田中 聡恵 (一巳中学校2年)

私のホストファミリーはとても優しく、良い人たちでした。ダンお父さんはとてもわかりやすくゆっくりと英語を話してくれ、ピクトリア旅行に出発する時も、私の気分が悪いとわかると、わざわざ家まで戻って水を持ってきてくれました。

アンドレアお母さんはいつも笑っていて、温かく優しい人でした。

ホストシスターのアリサ(10歳)は想像していたより、とても性格が素直で可愛くて、毎日アリサが寝るまで遊んでいました。

初日にダンお父さんとアリサと私の3人でスーパーマーケットみたいな大きなお店に食料品を買いに行きました。

私の好みを細かく聞いてくれて、私かわからない単語は何度も英和辞典を引いてくれましたし、わざわざご飯も食事に出してくれました。野菜が生で出てきたのには驚いたけど、けっこう食べやすい食事でした。(だけど日本食が食べたくりました)

ダンお父さんもアンドレアお母さんもアリサも、みんな私に親切にしてくれました。8月8日の夕食では、デザートにケーキにロウソクを立てて、私の誕生日を祝ってくれました。私の誕生日は8月25日なので驚いていると、「25日は聡恵はいないから」と、歌もうたってもらい、とても感激しました。

最後の日、「もう別れるんだ」と思う

と、泣きそうになりました。最後まで英語はあまり話せなかったけど、抱き合っていて気持ちを伝えました。日本に帰ってきたらとても会いたくなりました。今度は英語が話せるようになってから会いに行き、楽しく思い出話をしたいです。

色々ありがとうございました。



カナダに行った感想

柏倉 裕 (深川東商業高校3年)

僕は、青少年カナダ交流訪問団を受けて良かったと思っています。

カナダに行って、印象的だったことは、人間関係を大切にしていること。

そしてカナダの人たちはアイ・コンタクトをすごく大切にされていて、知らない人でも気軽に話したり、僕らにも気軽に声をかけてくれて、(すごく自然体で温かいな)と感じました。僕らは、そのおかげでホストにもとけ込みやすく、良い体験ができました。日本人にはないことだと思い、こんなにも日本とは

違うのかと感じました。

僕は、カナダへ行って何もかもが変わりました。まず「世界観」や外人に対するイメージが変わりました。

そして、自分の短所を良い方向に伸ばすことができたこと。

ホームステイも学ぶものがたくさんあり、良い体験になりました。

やっぱり一番つらかったのは、2週間という短い期間で、みんなやっとホストファミリーや周りの人たちに慣れてきて、一番楽しくなってきた時に帰るとい

うのは、特に中学生のメンバーには、とてもつらいことだと感じました。

そして、団長としてまた一つ、みんなの良いところをみつけることができたと思います。

この旅に行かせてくれた両親に、一番感謝したいと思います。



“旅”を終えて

藪 明香 (深川西高校1年)

「またカナダに行きたい」私はそう思いました。

私たちは8月27日に日本を出発し、カナダに着きました。到着してすぐ、すべてが英語であるカナダがすごく新鮮に感じられました。

私たちはアボツフォード市にあるW.J.MOUAT SECONDARY SCHOOLに行き、ホストファミリーとそこではじめて会いました。少し照れながら行くと、パパ(ジョン・ポール)に日本語で「こんにちわ、明香さん。私はジョン・ポールです。」と話しかけられました。

はっきり言って、思いっきりビックリしました。手紙で、日本語は少し話せると書いてあったけど、まさかはじめから日本語で話しかけられるなんて思ってもみませんでした。パパのとなり立っていたアレックス&レアにも、ビックリしました。写真で見たのと同じで、2人ともすごく似てました。それに、とっても美人でした。私はこの人たちと2週間、ここで過ごすのかと思うとワクワクしました。

私のパパ、ジョン・ポールはすごく優しい人でした。家の事を教えてくれたりしたのも全部パパでした。ママはクリス。毎朝エアロビクスに通っていました。そのせいか、とてもスリムな体型でした。

双子のお姉ちゃんの方はアレックス。アレックスはお姉さんだけあって、レアよりも落ち着いていたし、しっかりしていました。妹のレアは、私にいつも色々なことを話しかけてくれました。そして夜になると必ず「シャワー使う?」と聞いてきました。パパはそんなレアを見て、「レアはそればかり言っている」と笑っていました。2人は今、高校2年生で、今年の9月から3年生になる予定です。2人とは年齢が近いので、色々カナダで流行っていることを聞いたり、恋愛のことなど、本当にたくさんのお話をしました。ちなみに2人はボーイフレンドはいないと言っていました。あと、ママも入れてネイルパーティーをしました。2人の持っていたマニキュアのは数は、はんぱじゃなく多かったです。

向かいに住んでいたパティックとも遊びました。この時はパパも入れて水泳をしました。でも、私は寒すぎて泳げませんでした。なぜなら、この時すでにPM7:30すぎだったから、かなり冷え込んできたからです。なのに、4人は平気で泳いでいました。中は温水と言っていたけれど冷たかったです。

となりの犬・バンはすごく可愛い犬で、よく舐める犬でした。走ってこられると、大きいだけあって、少し怖かったです。

アレックス&レアの友達カールは、日本に3ヶ月間留学したこともあって、日本語は上手でした。留学といえば、日本からの留学生の秀才とも友達になりました。秀才は留学について、為になることをたくさん話してくれました。Mallも案内してくれました。こんなふうにかナダでの楽しい2週間はあっという間に過ぎていきました。実際に、英語漬けの生活を体験してみて、はじめはやっぱり、戸惑いとかもあったりしたけど、すぐに向こうのムードにも慣れて、(思ったよりも大変なことではないな)と思いました。それはホストファミリーの人たちが理解しやすいように、ゆっくりとしゃべってくれたのもあるし、私のあたふたした英語を理解してくれたからだと思いました。そのおかげで、私は(けっこう英語が話せるのかな?)と思うようになってしまいました。

それに、積極性が前よりついたのではないかと思います。

すべてを含めて、結果的にこの海外研修は私にとって、とても良い体験になったし、良い勉強にもなったと思います。私はそんなカナダに

「また行きたい。」そう思いました。



異文化の中で

山本 歩 (旭川北高校2年)

私は今回の旅で、自分の中にある日本という存在の大きさを実感しました。

例えば、挨拶の仕方、お客を迎える側・迎えられる側の関係、食生活、どれをとっても私たちとは考え方が異なります。

その中で、日本人である自分を認識するとともに、異文化に対する考え方もこれまでとは少し変わったように思います。

これまででは憧ればかりが先に立ってしまい、実質的にそれが良いのか悪い

のか自分で判断できていなかったように思います。

しかし、あちらでの生活の中で、実感としてカナダの文化を学ぶことができました。そして、日本文化と比較して、自分なりの考えを持てるようになりました。

誰に対してもフレンドリーなところはもちろん、私がすばらしいと思ったのは、自分は自分という考えです。周りに惑わされず、個性を大切に、その中で互いに認め合うというのはすごいこ

とだと思います。私は流されやすいので、ぜひ見習いたいと思いました。

カナダでの生活は私にとって、とても貴重な経験になりました。人間として成長するにも、これからの進路を考えるのにも、とても大きな2週間でした。

向こうでの生活があまりに楽しかったので、カナダに帰りたいと思うことがよくあります。でも今度は、勉強して、働いて、お金を貯めて、自分の力でお世話になった人たちに会いに行きたいです。



世界から勇気を...

高木百合子 (深川中学校1年)

日本を離れて、何もわからない海外へ行ったあの2週間。

私にとってカナダで過ごした2週間は、たくさんのことを体験し、学ぶことのできた日々でした。

滞在はじめの頃は、戸惑ってばかりでした。でも、そんな私をホストファミリーと一緒にいった友達がいつもフォローしてくれました。

しかし、やっぱり、(日本へ帰りたい)と思ってしまうことは何度もありました。滞在中、ホストファミリーと離れ、2泊3

日、ピクトリアへキャンプに行ったあの日は正直言って救われました。家族とのコミュニケーションをとるだけで、こんなにもたいへんなものかと思知らされました。

でも、日本にいた時の自分に負けたくなくて、学校から帰ってからの家庭での私はもう精一杯でした。

そんな私に、すぐホストファミリーは気づいてくれ、買い物に連れて行ってくれたり、色々な遊びを教えてくださいました。これには私も、涙が出るくらい感謝感

謝でした。

泣いたこと、怒ったこと、笑ったこと、たくさん色々なことがあったけれど、私は2週間の中で、みんなから、世界から、“勇気”をもらいました。

いつか、必ず私はカナダへ帰りたいです。



一生忘れることのできない宝物

上垣 美佳 (一巳中学校2年)

私のホストファミリーは、Thissenさんと、聡恵ちゃんと同じ家庭でした。みんな優しく、特にお父さんのDANは、とても神経が細やかでした。お母さんのAndreaは、とても体格のいい人で、夜遅くまで仕事を頑張っていました。10歳のAlyssaはとても純粋で、素直な子でした。帰る前の夜、私と聡恵ちゃんにピーズで作ったトカゲのようなものをくれました。ピーズの色も日本とは違う透明で、とてもきれいな色がたくさん組み合わせっていました。「名前はティサなの。」と言って、ニコッと笑った顔がとても子供らしくて可愛かったです。トカゲ(?)はとても可愛くて、今は自分の部屋の壁に飾ってあります。

遊びはトランポリンをしました。大きなトランポリンが家庭に1つなんて日本では考えられないと思いました。

みんな、ものすごく高くジャンプして、とてもびっくりしました。とても楽しかったです。

それから、イギリスから親戚が来たこともありました。8歳のトーマスと6歳のメクンは、とても肌が白くて、金髪で、イギリスの子供って感じでした。ものすごく可愛かったです。

帰る前日にDANさんに「Alyssaを描いてくれる?」と言われて、(1人ならいいや)と思い描きました。案外難し

くて、(なんでYESなんて言ったんだ~!!)と少し後悔しました。今度は「犬のピリーも描いてくれ」と言われて、少し困ったけど描きました。動くので大変でした。でもその日描いた絵の中では一番似ていたと思います。そしたら、また、なんと「これで終わりにするからダンも描いて、お願い。」と言うのです。(ウソでしょ??)って感じでした。その何日か前に「いつか僕を描いて」と言われたときも、難しそうなので、内心描きたくありませんでした。案の定、ケンタッキーのおじさんのヤセ型になってしまい、真正面をさけて横を向いてもらったのですが、長時間になってしまって、ダンは首が疲れたようでした。私も思い通りに描けなくて「I'm sorry, I couldn't」と言って3枚渡したら、いかにも疲れている感じの絵だったのにもかかわらず、「Wow!! Very nice!! You're a nice artist!!!」の連発をしてくれました。

3枚それぞれに「みか」とひらがな・漢字・カタカナでサインしました。「???」というような顔したので、「日本語には、ひらがなと漢字、カタカナがあって...」と説明をしましたが、(日本語って難しいな~)と思いました。私と聡恵ちゃん、DANさんに「これはダンの家です」と日本語で教えると、DANさんも調子によって、日本語で

Ice CreamやSofaを当てはめて、アリスに見せびらかしはじめました。すると、Alyssaが急に「こんにちわ。アリスです。よろしく願います」ときれいな日本語で言ったのです。DANさんは「なんで知ってるの?」と焦り出すし、私たちもとても驚きました。

後から考えると、互いの国を理解し合うってこういう小さいことから始まるのかなと思いました。

別れの日の朝、日本に帰るという実感はわいてきませんでした。

日本に着いて家のソファに座って、やっと、16日間は終わった...という感じでした。CANADAには日本と同じように、良い人・理解しにくい人、色々な人がいました。私はそれをHOST FAMILYを通して体験できたと思います。日本にいる友達とは違う人間関係も知りました。

絶対、この16日間の出来事全部、一生忘れることのできない宝物になるでしょう。

CANADAのみなさん、この交流計画にたずさわったみなさん、どうもありがとうございました!!



「忘れてはならない2週間」

桑原 知香 (深川東商業高校3年)

まず始めに、私自身が今回の青少年カナダ派遣の告知を見つけたこと自体が偶然でした。そして、実際にこの企画に参加することができて本当によかったと思っています。高校生活最後の今年の夏休みは、私にとってずっと忘れることのない思い出になりました。カナダで過ごした2週間は、本当に毎日が充実していて、最初の何日間は慣れない英語や生活の違いで一日一日が遅く感じました。でも、残り1週間という時から、時間がたつのがとても早かったです。ホームステイの始めの頃は、今日本は何時頃だろうとか、みんなどう夏休みを過ごしているんだろう、と夜考えることがあったのに、いつのまにかそう考えることも少なくなりました。

カナダでの毎日について、書きたいことはたくさんあります。でも、この2週間の出来事そして2週間分の気持ちを書き表すことはとても難しいです。ただ私は、この10人のメンバーで楽しかったし、カナダで出会った人たちと、本当に逢えてよかったと思っています。特にホストファミリーは私を本当の家族の様に受け入れてくれました。私の家には3歳と5歳の女の子がいて、お姉ちゃんのように思ってくれたみたいで毎日、何をするのもたいてい一緒でした。他のメンバーのホストファミリーには、あまり小さい子供がいなかったらしくて、私の家の子供たちはいろんな人にかわいがられていました。そんな風に私は、家族と一緒に時間がとても長

かったので日本に変える日が近くなるとよく泣いていました。帰国する日になっても最初から最後まで泣いていたのは私でした。日本に帰りたくないわけじゃないけど、カナダを離れたくない複雑な気持ちで一杯でした。とても優しくしてくれたカナダの人達に、いつか必ず会いに行きます。

一生の中では、たった2週間だけど、私は忘れようとは思わないし、忘れてはいけないと思っています。カナダは行くべきところだったと思えるし、逢うべき人に逢えたんだとも思います。

今回参加して英語や外国にますます興味を持ったし、またこのような機会があれば参加したいです。今すぐカナダに帰りたいくらいです。



ある日の授業中のできごと

倉本 圭 (旭川北高校1年)

私は8月9日、普通にW.J.モート高校に登校しました。そして何気なくいつもと同じように授業を受け、「今日はなんかつまらない日だな。」と思いながらフォトジャーナル作りをしていました。

すると、エイバック先生が「ボールを持っていくの手伝って。」と言ったので「ハイ。」と答え、体育館へ向かいました。教室に戻ると、北川先生がパソコンに土・日の出来事を入力するため、私は呼ばれ廊下へ行きました。

次は昼食の時間ッ!!もう、「待っていました」といわんばかりに、みんなを外へ行って食事をとりました。食べ終わった後で、北川先生が「スティーブ校長先生探してきて。」というから、はるかと一緒に外へ出て頑張って探しました。いないから教室に戻ると廊下

に北川先生がいて「おまえは入ったらだめ」って言って、はるかだけの中に入れました。「ちょっと、仲間はずれかい!!」って思って必死で違う方のドアから入ろうと思って行こうとしたら、「開けていいよ」というので、開けて入りました。入ると中は真っ暗で、「オイオイ」と思い、「やっぱりあっちのドアへ行ってみよう」と思ったら、まっちゃんが別のドアから覗いたので「クッソー」と思って、そちらのほうへ行こうとしたら、団長が「圭ちゃん誕生日オメデトウ。」とあって、みんなで一斉に出てきました。

最初は「はぁ?」って感じであ然としていて、少したってからやっと自分の誕生日だということに気づきました。部屋の中にはアイスクーキがあって、みんなが「オメデトウ」って言ってくれ

ました。このような突然のことは初めてだったから、思わず泣いてしまいました。感激のあまり涙が止まらなくて、本当に嬉しくて嬉しくて幸せ者だと思いました。みんなが書いてくれたバースデーカードを見ては泣き、見ては泣きの繰り返しで、すごく感動しました。

みんなが「なんか今日の行動おかしいと思わない。」って言って、「そお?」って答えたら、「全部仕組んでたんだよ。」と言われました。「うっそー。」ってびっくりしたら、「鈍感過ぎ」って言われ、本当に何も気づかなかった自分がバカだと思いました。でも、仕組んでくれた皆さんは、こんな人のほうがやりやすかったですよね?本当に感謝しています。カナダでの一番の心に残る思い出です。ありがとうございました。



カナダへ行って

小川 真人 (深川東商業高校3年)

最初の時は嬉しい半面カナダでやっ ていけるかとても心配でした。でも何 日か経つとすぐになれ、とても楽しい

ものになりました。ただ、どうしても慣れなかったのがカナダの食べ物でした。特に、ブルーチーズの味は最後まで慣れませんでした。

あと、体の調子もすぐれませんでした。行く時の飛行機のクーラーで風邪をひいてしまい、2日目のウォータースライドには乗れませんでした。風邪が

治った後はのどが痛く、上垣さんには迷惑をかけっぱなしでした。でも、団員やホストファミリーと過ごしていた時はとても楽しかったです。

みんなでビクトリアへ行った時はカヤックに乗ったり、泳いだり、買い物をしたりととても楽しかったです。ホストファミリーは、湖やアメリカの山に連れて

行ってくれたので、暇な時間はほとんどありませんでした。

たった16日間という短い期間でしたが、僕にとっては他の文化、人、衣、食、住などを知る良い体験でした。

また、何かの機会があれば、カナダへ行きたいと思います。



書ききれないほどの思い出

上垣由紀子（引率指導者）

バンクーバーまで約11時間の飛行から開放された私たち訪問団を出迎えてくれたのは、ガッチリした体格、知的で穏やかな笑顔のカールトンさんでした。

私たち12名を乗せたスクールバスは、窓からさわやかな風をいっぱいに入れながら東へ約1時間、郊外の田園風景の中を姉妹都市アボツフォード市へ向けて走りました。車窓から見える広告や道路標識が横文字であることに生徒達は、まず外国へ来た実感がわいたようです。

W.J.モート高校へ到着し、ホストファミリーと対面、簡単な挨拶や注意事項が話され、各々の家庭へ。

こうして、私たちの16日間のカナダでの生活ははじまりました。

私のホストファミリーの紹介をします。2人の息子を育てあげたメアリーさんは自営業。いうなれば「仕立て屋さん」です。洋服生地がダンボール箱で運び込まれると、最新式の洗濯機と乾燥機でしなやかに洗い上げ、デザインをし、地下のミシン2台で洋服に仕立て、会社に売るといふ商売です。

離婚後、2人の息子を1人で育てた彼女は、今は好きな洋裁で生計を立て、立派な一軒家をかまえ、悠々自適の生活を送っています。ウエスタンスタイルと乗馬の好きなメアリーさん。2人の息子さんはモトクロスのライダーで、ブリティッシュコロンビアで優勝したというのが彼女の自慢です。地下の仕事場には、金のトロフィーがテーブルからあふれんばかりに並んでいました。

彼女は息子に、自転車乗り方から馬の扱い、そして料理まで教えたそうです。上の息子のお嫁さんは、「自分の夫が家事一切できることを母のメア

リーさんにとっても感謝している」と話していました。「祖父がアイスランドからカナダへ移住してきた」という話もしていましたが、今思えば、彼女の手柄で凛々しい風貌や、息子たちの冒険好きは、北欧のバイキングが住みついたというアイスランド人の血を受け継いでいるのかもしれない。

3日間のビクトリア旅行以外の午前中は、W.J.モート高校で授業。真夏とはいえ、カナダのカラッと涼しい気温と冷房で、前半は体調を崩した生徒も多かったようです。それでもエイベック先生のクリスチャンらしい誠実な、かつ献身的な指導で、最後には全員が見事な英文のフォトジャーナル(写真入りの日記)を完成することができました。子供たちの一生の宝物になったことでしょう。

エイベック先生から、2・3日前、心のこもったお手紙をいただきましたが、彼女にとっても、この夏のハイライトは私たち訪問団に英語を教えたことだと書いてありました。ビクトリア旅行に同行してくれた彼女の娘ジェニーさんは、9月の新学期から日本語を選択することにしたとのこと。私たちとの交流の中で芽生えたものがあつたことを嬉しく思いました。

外国、特にカナダはテレビ・雑誌等の情報が豊かな現在の日本にとって、決して珍しく遠い国ではありません。ただ一方的に情報を受け入れる場合と、実際に家庭に入って生活を共にするのではたいへんな違いです。生活・習慣の違いに、はじめ子供たちは多かれ少なかれ、カルチャーショックを受けたようです。食べ物からはじまって、ゴミの出し方、テレビの見る時間帯、家族の他に同居人がいる場合等、不思議なこ

と、不便を感じる中での戸惑い・不安。そんな時、ホストファミリーや周りの人から受けた優しさや親切に、どんなに助けられたことでしょうか。そして、様々な状況を判断する中で、自分の意志、考えを英語で伝えられた時の達成感。それを知ってこそ、本当の理解・交流がはじまるのだと思いました。子供たちはみんな「ホームステイ」という貴重な体験を通して学び成長しました。

もう一つ、引率者として子供たちの成長を嬉しく思ったのは、団員同志がお互いを思いやり、協力し、団結し合う気持ちが出てきた時でした。それは一週間を過ぎた頃から、いたるところで発揮されました。ユースホテルで宿泊場所をめぐって話し合った時、協力した食事作りと後片付け、仲間がホームシックの涙を流した時、突然のバースデーケーキで祝った時の圭ちゃんの涙とみんなの嬉しそうなお顔、フェアウェルパーティーでの出し物の時の笑顔の奥の真剣な眼差し等、親元から遠く離れた場所で、子供たちが見せた成長の瞬間でした。それは今も、私の心の中に映画のワンシーンのように鮮明に焼きついています。

生まれ育った日本にいては、当たり前で、あまり意識もしなかった自分たちの生活。この旅行は子供たちにとって、自分自身を見つめ直す良い機会だったことでしょう。

日本でのこれからの自分たちの生活をさらに充実させてこそ、アイデンティティの確立、自立した人間形成につながるものと思います。

訪問団日程の最後の日、バンクーバーの空港まで送ってくれたのもカールトンさんでした。私たちの「研修旅行が安全、無事に行われるよう手助けする

のが僕の仕事だ」と言い、どんなことでも快く相談にのってくれました。彼は中学・高校の校長先生で、その校訓「Eye to Eye」のように、エネルギーに満ちあふれたカールトンさんの目は、いつも注意深く、愛情深く子供たちに

注がれていました。今も感謝の気持ちでいっぱいです。

国際交流協会をはじめ、お世話になった関係者の皆さまに心からお礼申し上げます。私たち訪問団は、この紙面ではまだ書ききれないくらい楽しい思

い出を作って、16日間の研修旅行を終えることができました。この交流で芽生えたものをみんなで大切に育て、さらに広げてゆきたいと思います。



2週間の行動について

北川博文（引率指導者）

7月27日から8月11日までの16日間、中学生3名、高校生7名の合計10名を引率して、深川市の姉妹都市カナダのアボツフォード市を訪問してきました。その間の様子を紹介いたします。

【第1日目...7月27日(火)】

- 10:30 深川市のバスで深川市役所出発。
- 12:35 新千歳空港到着 荷物を降ろし、バス出発。団員は2階へ
- 12:45 セキュリティーチェック開始（花火を持ってきた山本、小川の荷物が引っかかる。）
- 13:30 チェックイン 14:00 までご飯派と麺類派に分かれ昼食。
- 14:05 手荷物検査場へ移動、例のハイジャック事件の影響かものすごい混雑（ここでも手荷物の花火が引っかかり帰りで預かることになる。）
- 14:30 予定どおり出発
- 15:50 新東京国際空港到着（予定より早く到着）
17:00 まで自由時間とし、各自買い物やTCへの両替を行う。
- 17:00 出国手続き。全員無事通過（ここで並んでいる時、歌手の安室奈美江と出国手続きが一緒になる）
- 17:10 ゲートがD92ということで、移動開始 17:45 搭乗開始
- 18:00 予定時刻ではあるが、管制からの出発許可が下りず、動かず 18:47 出発
- 22:00 食事タイム ビーフとチキンの選択
日付け変更線 以降カナダ時間
- 9:00 朝食 フルーツパイ+ヨーグルト
- 10:45 YVR到着 しかし、スポットが空いていなく、しばらく待機
- 11:00 飛行機から下りる。
- 11:15 各自で入国手続きを行ない、全員無事通過
- 11:30 荷物をとって、出口へ移動。スティーブ・カールトン氏と会う。
- 11:45 バス出発。天気晴れ。右側走行に、生徒びっくりする。
- 12:45 アボツフォード到着、各ホームステイ先へ移動。

【第2日目...7月28日(水)】快晴

天気の良いため、薄着で登校する生徒多し。学校内が冷房きすぎのため寒い。明日から寒さ対策をしてくるよう指示。

- 9:00 学校へ集合
- 9:00~9:10 挨拶・日程紹介
- 9:10~9:15 カナダ紹介ビデオ+地理の勉強
- 10:15~10:30 休憩
- 10:30~11:30 フォトジャーナル作り > 日本の絵日記のようなもので、その日の出来事を写真と絵と英語(日本語)で説明する。
- 11:45~ カルタスレイクへ移動(小川体調不良でリタイア)
- 12:40~14:30 プールで遊び > 生徒は楽しんでいました。(1名水着を忘れて待機、1名体調不良)
- 14:50~ カルタスレイク出発
- 15:30 解散

昨日は、ホームステイ先の対応がまちまちで、疲れているのにプールへ連れて行かれた生徒や、ホームステイ先の娘の誕生会のお泊り会があって、なかなか寝れなかった生徒もいたそうです。中学生高校生関係なく、言葉が通じなくて苦労している生徒が多かったです。

【第3日目...7月29日(木)】雨

今日は1日バンクーバー研修旅行の日です。

9時集合、2名遅刻するも、雨の中出発。途中交通渋滞にはまる。バスの中での会話は、主に食事の話。ホームステイ先によって料理に違いがあり、おいしい食べ物を食べたと話しようものなら、プーイングのあらし。

予定より遅れてバンクーバー水族館到着。10:30からの鯨のショー、おしまいの芸だけ見る。鯨やペルージャ等の写真を取り、予定を少しオーバーして次の目的地へ向けて出発。

12:30 グランビルアイランド到着。雨は上がりました。ここは、小樽の運河沿いやメルヘン街道、函館金森倉庫周辺と同じようなところ。色々な食べ物屋があり、そこで食べ物を買って、席に座って食べることができます。雨のため、外で食べることができないので、中の席は満席状態。生徒は、ホストファミリーが作ってくれた、昼食を食べる予定でしたが、屋台の中に日本食屋台があり、それを見たたん弁当をやめ、日本食に走りました。ここには、食堂のほか色々な食品が売っていました。野菜、肉、ケーキ、パン、米、醤油、魚、刺し身にできるような切り身までありました。

14:00 にバーナビーに向けて出発

14:30 バーナビー到着 > 北海道でいえば、「開拓の村」のようなところ。生徒も結構楽しんでいました。

16:40 出発

17:35 アボツフォード到着 解散

【第4日目...7月30日(金)】晴れ

昨日の天気が嘘のように、晴れました。今日は一日学校で英語の勉強です。昨日の雨にあたって、体調を悪くした生徒増加。

午前中は、

出席に対する返事の仕方

昨日のバンクーバー旅行で思い出になったことを、単語で表現する

で出てきた単語を利用したビンゴゲーム > ビンゴした生徒には景品あり

色の表現のしかた

お金について > 特に小銭の種類・形について

午後は、

買い物の練習 > “ただ見ているだけ”の場合と“本当に買う時”との表現の仕方

フォトジャーナル作り カルタスレイク・バンクーバーの思い出を、写真と言葉で書く

(生徒の個性が出ていて、上手に書いていました)

値段の聞き方練習

来週の旅行についての注意 出発時間の確認 10:45 集合

到着時間の確認 19:30(持ち物確認)

15:00 解散

生徒も学習能力が身につけてきて、英語が分からないなりに、コミュニケーションができるようになる。

【第5日目...7月31日(土)】

午後からアボツフォードのアグリフェア(農業祭)へ行ってきました。以前に言われていた米袋を探しました。アボツフォード市のブースの一角に、米袋が置かれていました。ブースの店番をしていたのはW.Aird Flavilleさんという方で、昨年の調印式の時に深川に来られた人です。Aird氏曰く、「アボツフォード市民には姉妹都市の話はあまり知られていない。このブースも市のブースであるが、お金がないので店番を雇えない。それで、アボツフォードの国際交流委員の人がボランティアで店番をしていて、姉妹都市の説明をしている。」また、これからアボツフォードと深川との交流は盛んになると思うが、小人数で、例えば農家のグループ、自動車関係のグループ、ロータリー関係のグループなど、アボツフォードに同じようなグループがあれば、ホームステイ先を簡単に見つけることができるが、40人を超えるコーラス団体になると、ホームステイ先を見つけるのが難しいので、とても難しいとも言っていました。このブースにいるとき、韓国人ご一行様がお見えになり、いろいろと話をしていましたが、深川の米を見たたん、「米は韓国が一番。」と言っていたのが印象的でした。Aird氏は「ここにいると中国人、韓国人、台湾人などが『深川』という漢字を読んでいくが、発音が全部違う。」と言っていました。

アグリフェアの内容ですが、動物(馬、ひつじ等)の品評会、色々な動物(肉牛、乳牛、やぎ、羊、鳥など)の展示、動物に関する教育的な展示(鶏の卵を置いておいて、自然にヒナが孵る様子が見える)、子供向けの遊戯、食べ物屋台、色々な会社・団体のブースがあります。

夜の部

ホストファミリーの三男とその彼女と彼女の弟の4人で、バンクーバーまで花火を見に行く。夜の10:00 近くにしないと暗くならないため、10:15開始、10:45終了のプログラム。スポンサーはカナダのタバコ会社だそうです。

混むということで、19:00 アボツフォード出発、20:00 バンクーバー到着。駐車場を探すのが満車、もしくは値段が高い。ようやく安い駐車場を見つける。近くで食事をし、会場へ向けて移動。人々人々の山です。モーゼの巡礼ではないけれど、イング

リッシュベイに向けて、みんな歩いていました。あれだけ人がいれば間違いなく、花火の場所へ連れていってくれます。ハート型あり、目と鼻と口の形になっているものあり、大きなすだれ花火あり、楽しみました。

それにしても、日本人は多いですね。観光客なのか市民権を得ているのか分からないけれど、日本人が多いです。一瞬日本にいたのと錯覚を起こすくらい多かったです。浴衣を着て歩いている日本人もいました。

【第6日目...8月1日(日)】

午後から、スティーブ・カールトンと一緒に、アボツフォード市の経済状況を視察。物価が安いのか、バーゲンの時期なのか、とにかく安い。

昼食は、日本料理を食べに行きました。スティーブが「丼」物に興味を持っているため(生徒が、バンクーバーで食べた昼食について、日記にビーフ丼と書いていたのを見て)、どんぶり物を頼む。(ビーフ丼と天丼)味は、何と云っていいのか...天丼にはエビ、カボチャ、なすびが入っていました。プラス、インスタント味噌汁。値段は5ドル95セント。日本人が経営している店ではなく、韓国人が経営している日本レストランということで、こんなものでしょうか。

その後、スティーブの子供がアグリフェアでボランティア(アルバイトではない)をしているため、迎えに行く。時間が合ったので、もう一度中を見学し、アボツフォードのブースへ。今日は笠原さんが店番をしていました。たまたま、ファーガソン市長もそこにいらして、笠原さんがすぐ「深川から来た先生です。」と紹介していただきました。

【第7日目...8月2日(月)】曇り ~小旅行1日目

今日から、3日間の小旅行です。

10:45 学校集合

11:00 運転手(ダンという大学生で、日本語が少し話せる >1年間日本にいたことがある)

スーザン(今回の学校での担任)スーザンの娘

我々12名の合計15名で出発

12:30 トワソン湾到着

13:30 フェリー出発

15:30 ロング・ハーバー(ソルト・スプリング)到着

16:00 YH(ユースホテル)到着

YHはテントあり、木の上の家あり、普通の部屋あり。ここで問題発生。

YHの指示で男子はTPという外のテント決定。女子が11人中、3人がTPに寝なければならない。あみだくじを作ったところ、高校生の女子から、中学生はかわいそうだから中で寝て、高校生が1日交代でTPに寝ることを提案。

16:30...YHから使用上の注意

YHのリビングに入るときは、靴を脱ぐ

ゴミの分別

リサイクル、紙、生ゴミ(野菜)、その他(肉も含む)、野菜類は肥料に戻すそうである。

その他のゴミは、週に2回、ヴィクトリアへ送るそうです。

消灯時間 23:00

寝るところでは、食べ物ダメ

17:30 夕食作り開始 >本日のメニュー:カレーライス

女子高校生がお手伝い。米を炊くのに適した鍋がなかったけれど、お母さんが頑張って炊いてくれました。

19:00 夕食開始 外で食べようと一旦外へ出たが、蜂の大群で食堂へ戻る。食事は、YHに泊まっている人が各自で作り、鍋・食器を共同で使用。カレーが少し残ったので、宿泊者におすそ分け。夕食終了後、食器洗いに移行、またまた女子高生活躍。男子生徒、キャンプファイヤー用の薪を拾いに行く。

20:30 キャンプファイヤー開始。なぜか、日本人(我々のグループ)しか集まらない

キャンプファイヤーを囲んで、焼きマシュマロを作る。その後、日本語で歓談途中で、イギリスから来た女性が参加。しかし、すぐ去る(おなじTPに寝る人を探しているため)

22:45 ファイヤーストーム消火

23:00 就寝。

【第8日目...8月3日(火)】晴れ ~小旅行2日目

生徒の体調:雨のせいか寝不足多い

7:30 起床

8:00 朝食(パン+目玉焼き)

9:15 出発

午前中カヤックに乗る予定でいたが、海上で一部雨が降っているので午後に延期。またまた買い物に走る

12:00 昼食(サンドイッチ)

- 12:45 カヤック諸注意 > ジャケットの着方 オールのこぎ方 進み方の指導
- 13:15 いざ海へ
 天気が良く気持ちがいいです。コツをつかむまで、なかなか前に進まない
 沖の島まで漕いでいく。プライベートビーチの沖を通過。売りに出ているのも多し。途中アザラシを発見
- 15:15 陸に戻る 15:45 街をぶらつく。
- 16:15 海水浴をしに移動。
- 16:30 湖に到着。全員で泳ぐ。水温は結構暖かかったです。2~3メートル進むと、脚が届かないほど深くなります。
 飛び込む生徒登場(小川、柏倉、山本)
- 17:30 YHへ移動。お母さんとスーザンは街へ買い出し。この間に男子高校生は、YHに泊まっている子供とサッカーを始める(やっと国際交流が始まる。スポーツに言葉は要らない)
- 19:00 夕食作り開始(メニュー:ステーキ+スパゲッティー+いも)ステーキ作りは、男の仕事(世界の常識)ということで北川が焼く。焼きあがった分からは食べ始める。
- 22:00 昨日の反省を元に、YH内のベットを決め、今日は早めに寝る準備に入る。
 リビングルームでは、即席日本語講座。ケベックから来たカナダ人、バンクーバーのカナダ人、BC州から来た人などと話をする(北川)有意義な時間を過ごしました。「おやすみなさい」という言葉を教える。
- 23:30 就寝

【第9日目...8月4日(水)】晴れ

生徒の体調: 良し。肉を食べたお陰か、中学生も元気が出る

- 6:30 起床
- 7:00~ 順番に朝食(パン+目玉焼き)
- 8:20 YH出発 8:45 フルフォード・ベイ着(フェリー乗り場)
- 9:30 フルフォード・ベイ発 10:00 スワーツ・ベイ着
- 10:30 ピクトリア到着。車の中で写真取りまくる。
- 10:45 全員で Empress Hotel の中を見学しながら、ミニチュアワールドへ。
 その後解散 集合時間は 13:45 BC 博物館前。高校生は買い物へ。
 上垣親子は蠟人形館へ。高木・田中はスーザンたちとぶらぶら。高木は絵描きに自画像を書いてもらう(25ドル)。
 ミニチュアワールドは、色々な古い町並みのミニチュアから御伽草子の世界のミニチュア、歴史的な戦争場面のミニチュア(アメリカ独立戦争、ばら戦争、第2次世界大戦など)などがありました。
 蠟人形館には、カナダの君主ご一家(エリザベス女王ご一家)、サッチャー首相を始め、芸能界、スポーツ界の名士たちがいらっしゃいました。ダイアナさんもいましたし、ヒトラーさんもいました。
 また、ホラーの館には、歴史的な死刑のやり方について展示があり、各宗教の創始様もいらっしゃいました。その後、議会の建物見学。集合時間が迫っていたため案内なしで見学。やはり、この中にもエリザベス女王の肖像がありました。途中で案内人に追いつき、どれくらいの割合で女王がBCに来るのかと聞いたところ、6年に1回の割合だそうです
- 14:00 昼食を食べに移動
- 14:10~14:30 > 昼食 市民公園 移動開始
- 15:40 スワーツ・ベイ着
- 16:30 フェリー出発
- 18:00 トゥワソン港到着。アボツフォードへ向けて出発。高速へ乗る途中で夕食(マクドナルドへ)。
 値段が安く量が多い(レギュラーの飲み物が日本のLサイズ)
- 20:15 アボツフォード到着。各ホームステイ先へ

【第10日目...8月5日(木)】曇り

- 9:00~ 英語の授業 明日(6日)に英語のテストを行なう。そのため、英会話の復習を行なう。
 (挨拶、名前の聞き方、時間や値段の聞き方、物の買い方など)
 休憩後、3日間の小旅行の思い出を単語で出し合い、英語にする。英語の授業は、中学生には厳しいみたいです。特に、中学1年生の百合子は、頭の中が????状態です。他の中学生は塾で勉強しているため、どうにかついてきています。高校生はほっとしています。最初は????状態の高校生もいましたが、学習能力がついてきて、どうにかやっています。
- 12:30 移動開始
- 13:00 マツクイ農場到着
 乗馬開始。蚊の中、全員で約30分乗馬体験をする。落馬する者なし
 終了後、昼食(カナダ式ウインナーサンドイッチ)。たき火でウインナーを直火で焼き、それをパンに挟んで食べる。
 食事終了後、時間があるのでバレーボールを行なう。結構盛り上がる。

15:00 バスに乗り学校に戻る。 15:30 解散

【第11日目...8月6日(木)】曇り

生徒状況:特に変わったところなし。昨日乗馬したため、腰が痛いといっている生徒がいる。体調は良い。

9:00 学校集合。英語試験。

9:45 昨日の乗馬についての作文。今日は主語、動詞、目的語、補語を書いた紙を切って、色々な英文を作る作業です。

10:40 フォトジャーナル作り。途中で、こちらで現像に出した写真を取りに行く。

こちらの現像料金のほうが、日本より安いみたいです。

11:45 学校出発 Long House へ

12:30 Long House 到着

昼食(サーモン・バーベキュー+ご飯(長粒米)+サラダ+フルーツポンチ+先住民のパン)サーモンは、2日前にレーザーリバーで取れた鮭です。

13:15 説明開始

(教訓その1)

昔、この地域に一人の娘がいました。彼女はアメリカ(今の)に行きたくて、村を出ました。アメリカで一人の青年と出会い、恋に落ち、一人の娘を授かりました。ある日、彼女は故郷に帰りたく思い、彼に帰ると伝え、彼女の娘と、1匹の犬とで、故郷に戻りました。故郷に戻ると、広くすばらしい土地や河が見れて、彼女は幸せに感じました。そこに一人の聖霊があらわれました。聖霊には、物を石に変える力がありました。彼女は聖霊に石に変えてくれるよう頼みました。理由は、私はこの土地が大好きだ。ここからの景色をずっと見ていたいからです。聖霊はそれが正当な理由だと思い、彼女を石にしました。彼女は、最後に娘を抱きたいと思い、抱いたところ、娘も石になりました。犬が娘を助けようと石にしがみついたら、犬も石になりました。

(教訓その2)

昔、この当りに3人のリーダーが住んでいました。その3人でこの辺りを支配していました。しかし、彼らには「文字」がありませんでした。神様は息子を3人のところへ派遣し、その3人に文字を教えました。そして、彼は文字を教えながらレーザーリバーを下ってバンクーバーへ行きました。数年後、彼は文字がどれくらい広がっているかを見るために、レーザーリバーを遡行して、この地を再び訪れました。しかし、3人のリーダーは住民に文字を教えていませんでした。神の息子は3人になぜ文字を教えなかったのか尋ねました。1番目のリーダーは、慌てて住民に文字を伝えに行きました。2番目のリーダーは、その場にひれ伏して泣き出しました。3番目のリーダーは太鼓を叩き、悲しい歌を歌い出しました。神の息子は、3人を石に変えました。これがその石です。この石から、太鼓の音と悲しい歌声が聞こえてくるそうです。

(住居について)

昔の住居は、竪穴式でその上に屋根をつけていました。家の奥には、ゴミを食べさせる動物を飼っていて、何か特別な日にはその動物を食べたそうです。

(体験学習1) 機織り

(体験学習2) 腕輪作り

(体験学習3) 石器を使った木彫りや木なめし

15:20 Long House 出発

16:10 学校到着。

ここに、百合子のホストがパトカーで迎えに来ていた。

パトカーを囲んでの撮影会。本物の手錠をかけられて、ホストのPMと一緒に写真を撮る。

【第14日目...8月9日(木)】曇り

生徒状況:みんな元気です。

9:00 集合

9:30 ドリームキャッチャー作り。不器用な人、器用な人いろいろ。形も色々。小川、北村あたりが上手にできた。

その後、フォトジャーナル作り。昼食。受け取りに行った写真を使って、さらにフォトジャーナル作り。

14:00 倉本の誕生日パーティー

さよならパーティーの準備 歌の練習

17:30 マデリンさん宅で、さよならパーティー。会場はお庭。

びっくりしました。食事は、日本でいう仕出し。

メニュー:パン、サラダ(野菜・マカロニ)、漬物(ピクルス)、肉(ビーフ&ポーク)の食べ放題。

スティーブによる、開始の挨拶並びに今回の会場提供者、マデリンさん及びフレ・ザー・バレー大学の関係者の紹介。

(マデリン、リンダ・ブラウン、ディビット・ワイヤット)

食事開始 食事の途中で、今年拓大に留学していた、カレン一家+ホームステイ中の少年(紋別市出身者、芦別市

出身)、笠原さん(アボツフォード在住)、W.Aird Flavell(昨年姉妹都市提携で深川に来られた方)が登場。今回、カントリー歌手を余興と呼んでであるとのことで、生徒の出し物を先にやることになりました。

17:40 生徒の部開始。

上を向いて歩こう・sing・輪になって踊ろう・ジギスカンの順。その後、スティーブのほうから、生徒全員に今回のプログラムに対してのサティフィケートを手渡す。(一人一人+上垣、北川)

全員手渡したあとで、とりあえずお礼のスピーチをする。(北川+上垣)

スピーチ終了後、カナダの国歌で閉める。カナダ人も全員起立して、全員で合唱する。

20:30 カントリー歌手の歌の部(2名、バイオリン+ベース・ボーカル)

フォークソングを主に歌ってくれました。時間が遅くなってきたので、歌の途中ではあるが帰宅につく。

ホストの感想:今までのさよならパーティーの中で一番良かったとの声がありました。

生徒の歌う声も出ている(確かに、昼の練習よりも出ていました)という声もありました。生徒も、ホストからの受けが良く、特に団長のホストからは「彼はとてもいい、いつでも皆を楽しませてくれる。」とお言葉を頂きました。

【第15日目...8月10日(火)】

9時出発にもかかわらず、8時30分頃から集まり出す。荷物をバスに乗せ、いよいよ出発。全員泣いている。泣きながらバスに乗車。一路バンクーバー飛行場へ。途中高速が混んでいるため、アメリカ国境に沿った0号線を使用。順調に移動し、飛行場に到着。バスから荷物を下ろし、チェックインをする。最後の最後までスティーブが面倒を見てくれました。11時50分スティーブと別れ、セキュリティゾーンへ移動。ジェット気流が弱いので、飛行機が遅く到着。従って、出発も遅れる。飛行機の中は高校生が多かったです。静岡市の高校3校と一緒の飛行機でした。日本時間14時30分成田到着。入国手続き、税関と終了し、国内線へチェックイン。ハイジャックの影響で、機内持ちこみの荷物も調べられる。その後、17時まで自由時間と夕食を食べ、札幌行きの飛行機に乗る。

千歳到着後、深川市のバスに乗り、一路深川市へ。22時50分深川市へ到着。長い旅が終了しました。



深川国際交流協会総会開催される

～活動3年目にむけて～

4月20日(火)プラザホテル板倉において、深川国際交流協会の総会が開催されました。

総会に先立ち各部会ごとに新年度の事業について検討し、引き続き総会が開催されました。今回は設立から2年を經過し役員の変更もありました。主な内容について報告します。

《これまでの取り組み・活動の経過》

これまでの取り組み・活動の経過として、1997年度の主な内容と1998年度の全内容を整理しました。

年月日	取り組み・活動の内容
1997.3.27	深川国際交流協会設立総会を開催
1997.4.20~	フレーザーバレー大学カールトン・ティープス氏一行来深
1997.5.3	フレーザーバレー大学生4名、教員1名(リンダ・ブラウン)来深
1997.6.14	インターナショナルデーを開催
1997.6.14~7.28	第1回~第7回青少年カナダ交流訪問団事前研修
1997.7.30~8.12	青少年カナダ交流訪問団を派遣
1997.10.9~13	拓殖大学東京本校留学生のホームステイ受入れ
1997.10.16~19	道高P連等が主催するアメリカ・マサチューセッツ州 スプリングフィールド市の方々のホームステイ受入れ
1997.11.7	国際フレンドシップフォーラムを開催
1997.11.13	「深川市とカナダ・プリティシュコロニア州 アボツフォード市との国際交流姉妹提携の提言書」
1997.11.23	青少年カナダ交流訪問団報告会を開催
1998.3.16	ホストファミリーの集いを開催
1998.4.20	国際交流協会総会を開催
1998.4.30~6.26	フレーザーバレー大学生5名、教員1名(ジョナサン・シャンクス)来深
1998.5.18	第1回国際交流協会理事会を開催
1998.5.23	青少年カナダ交流訪問団員選考会を開催
1998.5	国際交流協会広報誌(初夏号)の発行
1998.6.1	第2回国際交流協会理事会を開催
1998.6.9	国際理解部会を開催
1998.6.10	青少年カナダ交流訪問団事前研修策定会議を開催
1998.6.12~7.25	第1回~第10回青少年カナダ交流訪問団事前研修
1998.6.15	インターナショナルデーを開催
1998.7.17	第3回国際交流協会理事会を開催

年月日	取り組み・活動の内容
1998.7.25	青少年カナダ交流訪問団壮行会
1998.7.27~8.11	青少年カナダ交流訪問団を派遣
1998.8.18	第4回国際交流協会理事会を開催
1998.8.22	第1回青少年カナダ交流訪問団事後研修
1998.9	国際交流協会広報誌(臨時増刊号)の発行
1998.9.1	ふれあい部会を開催
1998.9.6	第5回国際交流協会理事会を開催
1998.9.14	深川市とアボツフォード市の姉妹都市提携を祝う市民交流会最終打合せ会議
1998.9.15	深川市とアボツフォード市の姉妹都市提携を祝う市民交流会を開催
1998.10.12	第6回国際交流協会理事会を開催
1998.11.13	第9回北海道・カナダ姉妹都市会議 並びに第88回カナダ・スクール(芦別市)に理事長出席
1998.12.9~26	I P C (クラーク記念国際高等学校姉妹校) 学生1名来深
1998.12.13	第2回青少年カナダ交流訪問団事後研修
1998.12	青少年カナダ交流訪問団報告会並びに国際フレンドシップフォーラムを開催
1999.2.16	国際交流協会広報誌(年末号)の発行
1999.2.22	北方圏センター国際理解講演会を深川市と共催
1999.3.19	第7回国際交流協会理事会を開催
1999.3.25	ふれあい部会を開催
1999.3.26	海外交流部会を開催
1999.3.30	国際理解部会を開催
1999.3.31	ホストファミリー研修会を開催
1999.4.20	広報部会を開催
	第8回国際交流協会理事会を開催
	国際交流協会総会を開催

《決算および予算》

1998年度の決算と1999年度の予算です。より活発な活動を行っていくために、交流会費用と会議費用が昨年度より多くなっています。

【収入の部】

項目	1998年度 決算額	1999年度 予算額	摘要
会費	937,000	850,000	個人会費 ¥3,000 × 80名、賛助会費 ¥10,000 × 61口
委託料	500,000	500,000	深川市より
負担金	1,200,000	1,500,000	海外派遣個人負担金 ¥150,000 × 10名
補助金	3,424,000	4,024,000	深川市より
寄付金	0	0	
雑収入	106,215	1,325	預金利息
前年度繰越金	932,319	1,237,675	
合計	7,093,534	8,113,000	

【支出の部】

項目	1998年度 決算額	1999年度 予算額	摘要
事業費	5,568,339	6,634,000	
カナダ派遣費	4,687,842	5,724,000	青少年海外派遣事業
交流会費	175,865	500,000	インターナショナルデー、フレンドシップフォーラム、ホストファミリーの集い
その他事業費	704,632	410,000	英会話教室、青少年海外派遣壮行会および報告会、広報誌発行、ホームページ研究研修
事務費	5,861	50,000	通信費、備品他
会議費	281,659	400,000	総会、理事会、各事業部会、その他会議費
予備費	0	1,029,000	
合計	5,855,859	8,113,000	

《1999年度深川国際交流協会役員》

設立後2年が経過し、役員改選により新役員が就任しました。任期は1999年度～2000年度の2カ年です。

役員名称	氏名	勤務先・所属団体等
会長	芳賀 昭雄	深川商工会議所会頭
副会長	草原 克豪	拓殖大学北海道短期大学学長

1. 市民国際理解を深める事業

(1) 国際交流市民の集い開催事業

- ★ 市民を対象に、国際理解を深める講演会（フレンドシップフォーラム等）を開催する。

(2) 外国人とのふれあい事業

- ★ 青少年を対象に、拓殖大学留学生やAETとのふれあい事業（インターナショナルデー）を開催する。

(3) ホストファミリーの集い開催事業

- ★ ホストファミリー＆ホームステイ研修会を開催する。

(4) 英会話教室開催事業

- ★ 初心者向けの英会話教室を開催する。

2. 市民の海外派遣による交流事業

(1) 青少年海外派遣事業

- ★ 青少年の派遣実施および壮行会、報告会を開催する。

(2) 市民および団体の海外派遣の検討

- ★ 市民の海外交流の支援に向けた方策等を検討する。

3. ホームステイ受入れによる交流事業

(1) フレーザー・バレー大学研修生受入れ事業

- ★ 研修生受入れ体制の準備と受入れを実施する。

(2) 拓殖大学留学生受入れ事業

- ★ 留学生受入れ体制の準備と受入れを実施する。

(3) その他留学生等受入れ事業

- ★ その他の留学生等の受入れ体制の準備と受入れを実施する。

4. 国際交流の基盤づくり事業

(1) ホストファミリーの新規開拓と登録事業

(2) 通訳・翻訳ボランティアの新規開拓と登録事業

(3) 協会広報誌の充実発行

(4) 協会ホームページ作成に向けた研究



6月14日(月)17:00よりプラザホテル板倉において、インターナショナルデーが開催されました(国際ソロプチミスト深川との共催)。

今回の参加者は昨年の50名を大きく上回る約100名となりました。これは、この事業が子供たちに浸透してきた結果なのか?国際ソロプチミストのパワーなのか?国際理解部会のがんばりなのか?.....いろいろなこと

が考えられますが、これら全てが良い方向に向かった結果だと感じています。

内容もフレーザー・バレー大学の学生や教授とその家族、AETをゲストに招き、参加者自己紹介、フレンドシップトーク...“子供たちの積極性はすばらしい”...、コーヒープレイクをはさんで国際ソロプチミスト深川のメンバーによる司会進行で、日本

の不思議当てクイズ、じゃんけんゲーム...“とても良い雰囲気でした”...と続き、最後にはスポーツ少年団の小島美希さん指導のダンスタイム...“ものすごいもりあがり”...でしめくりしました。

多くの方々の協力で、とても楽しく、素敵な時を皆さんと共有できたと思います。

カナダ カナダのフレーザー・バレーってなに? ナナナ



~ つれづれなるままに

Oh! カナダ ~ 土門 裕之

「フレーザー・バレーってなに?」

これが、今回私に課せられた作文の題である。何故、私に寄稿依頼があったのか?もともと文章を書くのは苦手な私だが、幸い?なことに現在カナダに滞在していることから白羽の矢が私に向けられたものと勝手に解釈せざるをえない。重ねて申し上げるが、私は作文が苦手だ。読者の皆さんには、はなはだ申し訳なく、はじめにお詫び申し上げます。

面白くない題には当然全く面白くない答えが待っている。何?と聞かれると、「豊かな森林資源に恵まれた山々に囲まれた渓谷を流れる広大なフレーザー川がもたらした肥沃な土地」と答えるしかない。全く面白くない。そこで、勝手に題を面白い内容に変更してしまうことにする。

「つれづれなるままに Oh! カナダ」

これなら、我が家の珍道中を何でも書けそうだ。これに決定!さて、まず初めに我が家のメンバーを紹介しよう。土門裕之(おとうさん)孝子(おかあさん)広典(長男13歳)和広(次

男10歳)。通常、我が家は以上の4人家族である。ところがカナダではプラス2名の女の子が家族として一緒に生活している。私と家族ぐるみで付き合いがある友人たちから「娘に貴重な経験をさせたい」との強い依頼があり、なんと、5ヶ月間、彼女たちを預かり、一緒に留学することになったのだ。そこで、彼女たちも紹介することにする。晶子(Akiko:13歳)その従姉妹にあたる七生(Nanami:12歳)、というわけで、現在我が家は6人家族である。前置きが長くなったが、そろそろ本題に入ろう。

「アボツフォード市は急速に発展している」

深川市の姉妹都市であるアボツフォード市の人口は現在20万人を超えた。私が最初にここを訪れたのはわずか5年前だが、当時と比較しても発展の様子が手に取るようにわかる。高速道路の利用は無料なので、大都会であるバンクーバーの衛星都市としても位置付けられていて、ベッドタウンとしての機能も果たしているようだ。バンクーバーまで車で約45分。バスを利用した場合、片道わずか800円程度だ。

「地元のスーパーマーケットで日本食品が手に入る」

私は、1日3食ともご飯と味噌汁が欲しい純粋?日本人なので、何と言っても日本食品の調達は重要な課題である。こちらに到着した日、大学のリンダ・ブラウン先生(2年前に深川に滞在していた)がSave on foodsという大きなマーケットに連れていって下さったのだが、何と、キッコーマン醤油に天ぷら粉、ごま油、豆腐、味噌、鰹節、なんとグリコ・ワンタッチカレーまでが売っていた。米は国宝ローズ米というおいしいカリフォルニア産のものがあり、全てを購入。韓国人が経営するスーパーでは納豆も売っている。ただし、値段は全て日本の2倍。

「どの農家も裕福にしか見えない」

これは、私達家族の狭い視点から判断されたことだが、どう考えても、こちらの農家は裕福に見える。まず、家そのものの大きさが格段に別レベル。何と形容したらいいのかわからない。とにかく大きいのだ。妻の孝子から見ると、芝刈りにどれだけの時間を費や

すのだろうかという疑問が生まれるほど、前庭というか家までの距離があるというか、裏庭も広いので、とにかく気が遠くなるほどの家々が立ち並んでいるのだ。しかも、綺麗に花々が飾られている。おまけに、どの農家にも大きなキャンピングカーがある。日本で走っているその2倍はある大きさだ。国境に近いこともあり、何度も米国へ行ったが、アメリカの最北端に位置する Lynden の農家よりもはるかに裕福に感じる。これは我が家全員の共通見解である。

「学校教育制度の違い」

カナダの教育行政は各州に委ねられているため、日本の「学校教育法」にあたるような一律の学校制度が存在しない。教育制度は、州や都市によって異なるため、ここではアボツフォード市の学年制について説明しよう。（紙面中央上の表に整理。）

義務教育期間は10年間で、成績によっては留年は当たり前らしい。子どもたち絶句！

「小学校はまるでインターナショナルスクール」

本来ならば、13歳の広典と晶子は中等学校に通う年齢なのだが、何と言っても語学がまるでできない。英語はチンプンカンプンなのだ。教育委員会の Kathy さんや大学のリンダ先生たちの助言もあって、我が家の子どもたちは、全員近くの小学校に通うことになった。各学年1クラス。自宅から2^{キロ}の距離にあって、自転車通勤している。移民の国家であるカナダを象徴するかのよう、小学校も多数の民族で構成されている。地域性もあるかもしれないが、インド系の子どもたちが多いように感じる。ちなみに学校の初日、英語のわからない和広が覚えてきた言葉は「Be good!」。「いい子にきなさい!」だった。

年齢	学年	BC 州
5	就学前	幼稚園
6	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	Elementary (小学校)
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18	12	Secondary (中等学校)
19		
		高等教育 (大学)

「リバーラフティング 川下りの醍醐味」

自然が豊かなカナダ。その代表的な夏のスポーツというか遊びというか、それは何と言っても川下りだ。スキーリゾートで有名なウイスラーに私の友人が住んでおり、家族でお邪魔した折に、リバーラフティングを体験することができた。

日本だと、筏下りという感覚だが、ここは違う。頑強なゴムボートで激流を水しぶきを浴びながら1時間以上かけて下るのだ。所々、風景を楽しむことができる静かな流れに戯れながら、再び激流に突入していくあのスリル！ボートキャプテンも明るい人柄で、ウエットスーツにヘルメット姿の私達に恐怖心をさりげなく与えつつも、最高の感動と満足感を提供してくれた。夏のカナダを体験するなら一押しのアクティビティー！子どもたちも大満足！

「治安・生活環境は抜群」

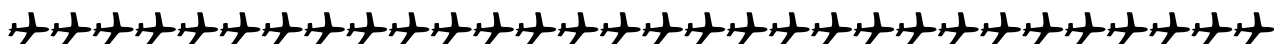
アメリカと違って拳銃などの武器所有が認められていないカナダ。しかも、アボツフォードはそこそこの豊かな田舎であり、適度に大都会から離れている。日増しに不安さを増している日本の現状を考えると、治安はかなり良いと思ってい。食品も日本の半額から7割程度。ちなみに、2リットルのコーラが3本で激安の180円。お金の使い方によるが、贅沢しなければ？日本よりはるかに豊かな生活環境が整っていると言えるだろう。ただ、日本独特の文化である「スナック」のようなお酒とカラオケを楽しむ場所はほとんどない。独身男性の単身赴任は気の毒かもしれないが、私には関係の無いことなのでこの位にしておこう。

「おわりに」

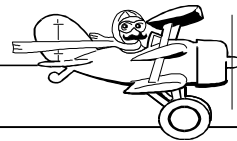
8月の下旬、子どもたちが裏の森（家の裏庭が森につながっている）に1メートルほどの落とし穴を掘った。なんでも、ウサギを捕まえようとしていたらしい。翌日、朝早く目覚めた私だが、何気なくその森を窓越しに見ていると、数名の人が森の中から歩いてくるのではないかと。いかん！そこには落とし穴が！焦って飛び出し、危険を告げ、一難を逃れたが、まさかこんな森で朝の散歩をするとは思っていませんでした。その後、子どもたちは、1枚のプラカードを作って落とし穴のそばに立てた。「CAUTION」、警告という意味。これが、子どもたちがカナダで辞典を調べて書いた初めての英語だった。

深川のみなさん、我が家は至って元気です。いや、元気過ぎます。みなさんもお元気です！年明けに帰国の予定なので、是非、四方山話などを、聞いてやって下さいませ。ではこのへんでさようなら。

北緯49度より どもんひろゆき



募集しています！



☺ 「ホストファミリー」 …… 現在 41 家族の方が希望しています。

☺ 「通訳・翻訳ボランティア」 …… 現在 20 名の方が希望しています。

☺ 「深川国際交流協会会員」 …… 現在、一般会員は 86 名、賛助会員 57 団体です。

【問い合わせ先】深川国際交流協会事務局（深川市企画課） ☎26-2215

世界に発信する深川地球市民



【広報誌発行責任者】谷口保幸（広報部会部会長）

【広報誌編集担当】深川国際交流協会 広報部会

編集長：南部雄二 副編集長：橋本 信

編集委員：高橋保之・池田敏江・今井敏雄・大野昌子・上垣由紀子・北本清貴・菅原明義・鈴木美彦・高橋昇・寺下良一
広野勝利・藤岡光一・本庄康二・三ツ井隆博